

2010年3月議会 陳情に関する反対討論

日本共産党 米子市議団 石橋よしえ

陳情 149 号「東山運動公園内の競技場改修及びその周囲の施設・環境を改善する陳情書」の趣旨採択に反対し、継続審査を求めます。

この陳情について市民の皆様から様々な意見をお寄せ頂きました。Jリーグファンの方から、米子でJリーグの試合を観たい、子どもにも夢を与えたい、そのような声も伺いました。しかし、それなら同じサッカーでも子どもが日常的に使うための施設のほうがほしい、というサッカー関係者の意見もありました。そして多かったのは市民の要望はいろいろあって、その中で、この財政難の米子市政で、特にこの施設のために多額の税金を投入することには反対という声でした。

2万5千という西部一円から寄せられた署名は、大切にされねばなりません。この事業を進めるかどうかには、もっと幅広い市民の要望・意見をアンケートをとる、意見募集するなど、聞くことに務め、判断されるべきと思います。

ガイナール鳥取のJ2昇格も、崎へ伸びたという状況でもあり、急ぐことなく米子市のスポーツ振興全体を見据えた計画を立てて頂きたいと考えます。

またこのどらどらパーク東山競技場の改修については、防災の施設として国の補助が出るのではないかという、市議会での論議もありましたが、防災の問題は防災を中心とした安心な設計とすべきものです。これは別途計画すべきものと考えます。

もとに戻って、この陳情は純粋にJリーグの試合の出来る素晴らしい施設がほしい、というものです。

その趣旨にそって継続審査をすることを求め、今現在の趣旨採択には反対します。

陳情 170 号「米子市保育所の民営化計画を中止し、保育所の条件整備を求める陳情書」について委員会審査結果の不採択に反対し、採択を求めます。

保育所の民営化は、旧政権の進めた構造改革路線の中から、社会保障や福祉切り捨ての一環として出てきた問題です。05年度から保育所運営費は一般財源化され、地方交付税で補うとされながら、全体の額は減らされています。私立の保育所には引き続き運営費は特定財源として入っていますが、今後は一般財源化するという方針もあります。米子市でも財政健全化プランのなかで、市の職員を減らし公費負担を軽減する計画の一環として位置づけられています。

この流れから、「米子市保育所在り方検討会」では「財政難の中、現在ある保育所の問題を早急に解決するためには、民営化もありうる」として、「限りある財源や人材を効率的かつ効果的に活用」という基本的な考え方で「公立保育園の一部民営化で保育環境の改善を図る」というまとめがされました。しかし、自治体の基本的な役割は「住民の福祉の増進」です。効率的かつ効果的という経済効率重視は目的と方法を取り違えた本末転倒の論理です。

保育所の在り方検討会の中で話されたのは、公立私立ともに保育条件のひどいこと、特に保育士の少なさ、待遇の悪さです。その中でどちらも血の滲むような努力をして来られた。民営化しか見ないのではなく、この改善に真剣に取り組むべきという声が上がっています。保育所の最低基準は昭和23年、保育所も保育士も足りない中でつくられた最低限のもので、これを上回って整備することが、国と自治体に義務付けられています。自治体はこれまで努力をし、保育所や保育士の実績を積み上げてきたのです。

公立保育所の存在意義は、住民の保育ニーズ、子育てのニーズを把握する行政の現業機関としての存在です。把握したニーズを行政施策に反映させていく重要な役割を担っています。

一部とはいえ、民営化はこの役割を投げ捨て、これまで積み上げた保育の実績を投げ捨てるものです。いい保育、子育てを一緒につくることから遠ざかります。

米子の未来を担う子どもに良い保育環境をつくるために、民営化を中止し、保育所の条件整備を求めるこの陳情を「不採択」とせず、「採択」とされるよう、皆さまの賛同をお願いします。

陳情 171 号「後期高齢者医療制度の即時廃止に関する陳情」の委員会審査結果「不採択」に反対し、採択を求めます。

後期高齢者医療制度は、高齢者を差別し高齢者だけで構成されることから保険料負担が高く、そして負担が増え続ける。また被扶養者だった人も新たに負担が発生する。同一世帯でも高齢者のみ別枠に移されたことにより、高額医療費の自己限度額が別々の計算となり、負担が高くなる。などなど「姥捨て山か」と厚労省の説明資料にまで書かれました。この制度の、一刻も早い廃止を願う声は少しも小さくなっていません。昨年の総選挙にも大きな影響を与え、民主党はその廃止を公約しました。それにも関わらず、廃止を4年先へ先延ばししたことが、鳩山政権に対する大きな不信感となっています。

この4月からの保険料の引き上げは軽減策により一定抑えられたものとなっ
てはいますが、廃止まで4年間据え置きという訳ではありません。

この制度の根拠である高齢者医療確保法の第1条「目的」には「医療費の適正化」とあり、健診、人間ドッグなど、医療の内容にも制限が加えられ、医療費の抑制が進んでいます。保険料が払えなければ保険証が取り上げられます。米子でも2月現在46名が短期保険証となっています。

先送りの4年の間にも75歳を過ぎた新しい加入者が刻々と増え続けます。

すぐに廃止すれば混乱する、といわれますが、被保険者は混乱どころか喜ぶばかり、事務処理の煩雑さ、システムをまた変えることにより経費がかかるのは、国の責任において努力すべきでしょう。

厚労省が後期高齢者医療制度改革会議に提示した新制度案は、65歳以上の高齢者全員を国民健康保険に加入させ、65歳以上と65歳以下を別勘定とするものです。これでは高齢者を囲い込む差別的な医療制度の根幹は変わっていません。姥捨て山の入山年齢を引き下げただけのことです。

一刻も早くこの制度は廃止し、長生きが辛いなどとお年寄りに身の置き所のない思いをさせるのを止めましょう。本来ならばお年寄りには、無料で出来る限りの医療を尽くすのが当たり前ではありませんか。

今期最後の議会に当たり、後期高齢者医療制度の即時廃止を求めるこの陳情を採択し、新しい政権が国民の願う方向へ大きく踏み出す後押しをしましょう。皆さまのご賛同をお願いします。

陳情 169 号「米子空港（美保飛行場）の米軍との共用基地化撤回と

**米軍の夜間離着陸訓練に反対することを求める陳情」の「不採択」
に反対し採択を求めます。**

住民・自治体に何の相談もなく決定された米軍との共用基地化は、市民に大きな驚きと不安を与えました。この陳情に対し、美保基地問題等特別委員会で、論議らしい論議もなく「不採択」とされたことに驚いています。

知らない間に米軍との共用基地化されたことに怒りはないのですか。

500メートル延長され、大型輸送機の離着陸可能な滑走路が、軍事目的に使われないだろうか、という不安はないのでしょうか。

米軍が岩国基地周辺 185 キロ圏内に要求している夜間離着陸訓練も含む訓練施設の条件に美保飛行場は入っている。このことに不安はありませんか。

ご存じのように、美保飛行場には戦後アメリカ軍が駐留したことがあり、朝鮮半島にもっとも近いので、基地に隣接して「象の檻」という情報収集の巨大アンテナ群があります。重要拠点の美保基地周辺に住む私たちは、もっと注意深く強い関心を持たねばならないのではないのでしょうか。

夜間離着陸訓練は、この陳情書にもある通りそのすさまじい轟音にたいして、各地で反対運動がおき、実施させなかつたり中止になったり、訴訟で反対住民の側が勝訴したりしています。

今こそ市民の安全・安心のために、米軍との共用基地化の撤回を求め、夜間離着陸訓練の基地となることにはっきりと反対の意思を表明する時です。

この陳情を採択することを再考して下さい、強く訴えます。